令和5年度医学部医学科新入生の皆様へ

新入生の皆さん、北海道大学医学部医学科への入学おめでとうございます。北大医学部教職員一同を代表してご挨拶申し上げます。

3年以上にわたる新型コロナウイルス感染症の拡大を受けながらも、そのなかで北海道大学に入学された学生諸君に対して、心からお祝いの言葉を述べます。

北海道大学医学部は、1919年に北海道大学帝国大学医学部として設置され、2019年には創立100周年を迎えた我が国屈指の歴史と伝統を誇る医学部であります。既に一万人を超える卒業生が巣立ち、約6000名の同窓生が日本はもとより世界各地で活躍しております。新入生皆さんは医学部医学科第105期生として、これから医学を学び、6年後には社会に巣立つこととなります。まず皆さんには、「社会の一人のひと」として貢献する「医学・医療」について、お話したいと思います。

北海道大学医学部医学科は単に医師の養成を目的にしているわけではありません。医師としての優れた臨床能力を身につけるとともに、研究を通じて医学と医療の進歩に貢献する指導的な医師ならびに医学研究者を目指してもらいたいと思います。臨床現場の医師としてだけでなく、未来の医学そして医療の発展に貢献することは、国民から期待されている使命でもあります。

北海道大学医学部医学科に入学したみなさんは、これらの目標を具現化するという国民から負託された大きな使命があることを自覚して学生生活を送ってください。現在、世界でも最高レベルにある日本の医療体制は、時代を超えてこの使命を果たしてこられた多くの先輩の努力の結晶であります。皆さんは、この使命を果たされている多くの先輩に指導を受け、刺激を受け、人間的にも立派な医師・医学者として活躍していくことでしょう。今回は将来に向けての3つのアドバイスをお伝えしたいと思います。

まず、第一に幅広い基礎学力および教養を身につけてください。サイエンスとしての医学は単なる理系の学問ではありません。対象が「人」であることから、リベラルアーツを基本とし、多くの人文・社会科学を含む幅広い学問を習得する必要があります。

第二に、医師として必須である温かい思いやりの心および病める人たちを包容できる豊かな人間性と高い倫理観、そして自己犠牲できる博愛の精神を培ってください。その内容や質が容易には理解できない仕事に従事する「専門職（プロフェッション）」には、一定の資格・免許などにより特別な地位と独占性が認められ、そして職業倫理の確立と尊重が求められます。医師も、公益性、道徳性、専門性が強く求められる専門職です。医師のプロフェッショナルリズムには、臨床能力・コミュニケーションスキル・倫理的・法律的理解の土台の上に立つ、卓越性・人間性・説明責任・利他主義の4つの柱が要求されます。皆さんも最終的には、医師として、このプロフェッショナルリズムを身につけてください。

第三に、国際性を身につけてください。「国際性の涵養」は北海道大学の基本理念のひとつではありますが、グローバル化した現在において、医学研究や医療政策においても国際標

準や国際協働が必須となっております。すなわち、北海道大学医学部医学科の教育目標としまして、地球規模で活躍できるグローバル人材を育成することがあります。そのためには、世界的なコミュニケーション言語である英語の能力を身につけ、医学の専門性と幅広い教養をもち、多様な国の文化や慣習等を理解し、かつ自主性と協調性を兼ね備えたバランスの取れた行動ができることが必要となります。そのためには、大学生活の早い段階から自然科学はもちろん、さまざまな人文科学や社会科学を含む学問を自ら学ぶ姿勢を持ってください。

北海道大学の基本理念のひとつに「全人教育」があります。全人とは、知識・感情・意志の調和のとれた人であります。北海道大学の起源であります札幌農学校の初代教頭ウイリアム・スミス・クラーク博士は、「Be gentle」の一言を校則としました。それにより、学生たちの自立心と独立心そして倫理性を目覚めさせることで、人間としての全人教育を遂行しました。「全人」となるべく、北海道大学医学部医学科の学生皆さんは、本学に相応しいプライドを有しつつも、誠実で謙虚な精神を忘れないようにしてください。

多くの偉大な先輩が育ったこの広大なキャンパスで大きな夢と理想を抱き、絶え間ない努力により自分の能力を最大限に発揮してください。皆さんが 105 期生として一同が揃って卒業し、世界で活躍し信頼される医師・医学者として巣立つことを祈念しております。

令和 5 年 4 月 吉日

北海道大学医学部長 畠山 鎮次